

## 用語解説

- 栄養塩** 窒素、リンなど植物の生命を維持するうえで必要な主要元素とマンガン等の微量元素で炭素、水素、酸素以外の主に塩類として摂られるものが栄養塩である。水の出入りや交換が少ない閉鎖性水域では、窒素やリンなどの栄養塩類が流入してくるために富栄養化が進み、藻類が大量発生し、赤潮などがおこる。
- エコポート** エコポートとは、「将来世代への豊かな港湾環境の継承」、「自然環境と共生」、「アメニティの創出」を基本理念とし、この基本理念を踏まえ、総合的、計画的な取り組みのもとに、生物、生態系に配慮し、自然環境と共生した、アメニティ豊かな、環境への負荷の少ない港湾のこと。
- 環境基準** 人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい行政上の目標として、国が定めた具体的な数値基準のこと。
- BOD**  
(生物化学的酸素要求量) 水中に含まれる有機物が微生物の働きによって分解される際に消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標。
- COD**  
(化学的酸素要求量) 水中に含まれる有機物が酸化剤によって化学的に酸化されるとき、消費された酸化剤の量をそれに相当する酸素の量で表現したもの。CODの量は、水中に含まれる有機物の量を表す代表的な指標の一つになっている。また、底質の汚濁を測る指標にもなっており、水産用水基準では、COD20 mg/g乾泥以下とされている。
- 自然海岸** 海岸が人工によって改変されないで自然の状態を保持している海岸。
- 半自然海岸** 道路、護岸、テトラポット等の人工構築物で海岸の一部に人工が加えられているが、潮間帯においては自然の状態を保持している海岸。
- 浚渫**  
(しゅんせつ) 航路、泊地などを建設、整備したり土砂の採取又は土地の造成のために海底などを掘ることをいう。
- 親水護岸** 海や河川等の護岸で水にふれ親しむことができるようなデザインの配慮がなされた護岸。
- 生態系** ある地域に生息する生物群落と、水や炭素、日光などの無機的な条件の両方と、それらの関係を含むシステムのこと、エコシステムとも言われる。生物や物質の存在だけでなく、食う・食われるの関係や日光をめぐっての競争などの生物どうしの関わりや、生物が気温や降水量に影響されるなどの生物と環境の関わりなどを合わせていう。
- 食物連鎖** 「食う、食われる」のつながりのことをいう。例えば、植物プランクトンを小エビが食べ、その小エビを魚が食べ、さらにその魚を鳥が食べるといった生物間における捕食の関係のこと。

潮汐残差流<sup>せき</sup>

潮汐の干満による周期的な往復の流れ（潮流）のほかに、地形の形状や、海水密度の場所的な違いなどにより発生する流れがあり、これを潮汐残差流という。香椎地区では、作濤<sup>れい</sup>を行ったことにより、地形に変化を与えて潮汐残差流を促進したものである

DO  
(溶存酸素量)

水中に溶けている酸素の量。DOは水の自浄作用は水中の生物にとって不可欠のものであり、DOの変化は生物に大きな影響を与える。

富栄養化

水域中の栄養塩類の濃度が高まっていくことを、一般に水域が富栄養化するという。栄養塩類が増加すると、赤潮や水の華の発生に代表されるように植物プランクトンの著しい増殖<sup>れい</sup>が起こり、その結果、水質が悪化して利水価値が低下することになる。

養浜

砂浜を人工的に蘇らせるために、外から砂を持ち込んで海浜を回復、増強すること。

硫化物

底質の汚濁を測る指標の一つで、水産用水基準において、海域では乾泥で硫化物0.2mg/g以下とされている。有機物などが沈降し、それが分解されて酸素が消費される際に硫化水素が発生し、底質中の金属などと反応して硫化物を生成する。

エコパークゾーン  
香椎地区（御島）シーブルー事業効果把握調査報告書

発行 平成16年6月

福岡市 港湾局 環境対策課

〒812-8620 福岡市博多区石城町13番13号

TEL 092-282-7132 FAX 092-291-7144



古紙配合率100%再生紙を使用しています  
Printed on 100% Recycled Paper